

【オープンキャンパス報告】

2022 年度オープンキャンパスに学友会が協力しました

学友会兵庫支部支部長 神澤匡数、支部役員

2021 年度の兵庫支部総会で出石企画委員長からオープンキャンパスへの協力依頼が正式にあり、兵庫支部の役員で引き受けることになりました。7 月 9 日(土)、8 月 6 日(土)の 2 日間を担当することになりました。

5 月に数名で装置の打ち合わせ(下見)を行い、オープンキャンパスの当日のスケジュールと大学側の(何をしたらよいか)要望を確認しました。

要望をもとに Zoom での会議を数回重ね、Line 等で連絡を取り合いながら準備を進め、直前には遠山先生と大学事務局の村上氏と Zoom での最終打ち合わせを行い、7 月 9 日は 8 名、8 月 6 日は 7 名でオープンキャンパスに臨みました。

オープンキャンパスは 12 時開始でしたが、10 時に集合し、ファントムの撮影など準備に追われ、開始前には教職員と一緒に当日の流れを確認しました。

学友会の担当内容は両日とも「講演(放射線技師の魅力紹介)」「装置紹介(一般撮影・CT・MRI・マンモグラフィ)」を担当しました。ここからは、それぞれについてご報告いたします。

各担当より:

- ・講演「放射線技師の魅力紹介」



担当:辻居賢一(短 15 回生)

学友会メンバーは大学 1 階にある実験室の装置の説明のみとと思っていましたが、「診療放射線技師の魅力」というテーマでの講演も依頼されました。当初、僕の頭の中では後輩の方におもしろいように考えていたのですが、5 月の打ち合わせ時、最後に事務の村上氏からご指名を頂き、講演を担当することになりました。

診療放射線技師の魅力・・・難しいテーマだなと思いながらスライド作成に入りました。直前に高校生が分かるように専門用語などは控えて欲しいと要望があり、スライドの修正を加えオープンキャンパスに臨みました。

遠藤学長の挨拶(15 分)で始まり、大学の先生による講演(20 分)に続き、私の講演となりました。時間的にも眠くなる時間で、すごいプレッシャーのなか講演が始まりました。

私の講演内容としては技師が携わる装置・やりがい・学友会・DMAT などの流れで構成し、何とか 20 分で収まるように頑張りました。

また、休憩時間等を利用してポータブル装置の展示や、業者からお借りしたステントグラフト・コイルなどを展示し、説明を行いました。高校生や保護者の方々に実際に触っていただき、休憩中にもかかわらず、展示物の説明を熱心に聞いてくれました。一部のグループは 1 人で対応できないくらいでした。展示コーナーも盛況で、準備した側としてはとても嬉しかったです。



- ・装置紹介「一般撮影」

担当:神澤匡数

(短 7 回生)、吉田隆人(大 6 回生)

高校生に向けて 6 分間で一般撮影装置の紹介をしました。参加された高校生に尋ねると、ほとんどの方が一般撮影検査の経験が有るとのことでした。

また、テレビ番組で見たり自身で調べるなど、装置に関しては少し知識がある高校生が多い印象でした。そこで、装置に関する細かい説明ではなく実際に X 線撮影をする形での装置紹介としました。

内容は、紙箱の中におもちゃのミニカーを入れ、「箱を振って中身を予想」→「X 線撮影」→「答え合わせ」という流れで、「診察」→「X 線撮影」→「診断」という病院でのプロセスを体験していただきました。

多くの高校生や保護者の方が積極的に参加していただき、大盛況の装置紹介となりました。

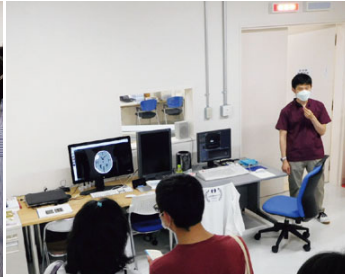
- ・装置紹介「CT」

7 月担当:榎本亮介(短 18 回生)、8 月担当:山崎一樹(大 7 回生)

ツアーではまず、装置のすぐ傍で外観を見ていただき、担当者が勤務先でも配布している製薬会社作成の患者様向けリーフレットを差し上げました。

次に、学内データの臨床画像だけでなく、身近な物としてカップ麺や玩具入り入浴剤を撮影した画像をお見せ





しました。更に、リーフレットや自施設紹介パネルにある3D処理画像について解説しました。参加者には大きな装置や画像など見慣れないであろう物を多く目にしてもらいました。CTの操作といってもただ撮影するだけでなく、その先にも技師の仕事があると伝えて一行を見送りました。

・装置紹介「MRI」

7、8月担当:西田高大(短13回生)、7月担当:山崎一樹(大7回生)

見学内容としては、まずスライドを用いてMRIの簡単な説明、導入費用、装置入れ替え時の画像、入れ替え時実験した酸素ボンベの吸着動画などを紹介しMRIとはどのようなものか紹介しました。

次に、実験室に導入されているCanon 1.5TのMRIを用いてハサミが実際に引っ張られる様子を見学していただき、持参したパイナップルを撮影しMRI特有の撮影中の音の視聴やT1・T2強調画像の違いなどを解説いたしました。



8月6日(土)の見学者には、自分自身が2回目で余裕ができ、自分が撮影した画像が添付されている実際の放射線科医師の診断レポートを紹介し、技師の仕事のやりがいを伝え、また現役診療放射線技師として、私が放射線技師になる際、両親が気にしていた職業上の被ばくについて、私の妻も放射線技師(同級生)であること、元気いっぱいの子供もいることなどを例に挙げ安全である旨を最後に追加で説明させていただきました。



2日間で合計9グループに見学していただきましたが、MRIの導入費用は想像以上だったみたいで一様に皆さん驚かれ、吸着動画にはこちらの思惑通りの反応をしていただきました(笑)。

・装置紹介「マンモグラフィ」

担当:奥好仁(短14回生)、田中舞(大7回生)

オープンキャンパスにてマンモグラフィの担当をさせていただきました。

他のモダリティに比べてインパクトは無かったかもしれませんが、マンモグラフィとはどのような検査なのか、マンモグラフィ検査の時の圧迫の重要性について少しお話した後に、トレーニング用ベストを着用して装置に向い圧迫の実演を行い、自己触診用模擬ファントムを触ってもらいました。

どちらかと言うと、一緒に参加されたお母さんたちが興味を持っていた印象でした。



参加していただいた沢山の高校生や保護者の皆様に、少しでもマンモグラフィの検査を知ってもらい、興味を持っていただけたら幸いです。



最後になりますが、当日には玉田会長・西谷副会長も駆けつけてくださりありがとうございました。

また、当日私たちをサポートして頂きました大野先生、佐藤先生、遠山先生、赤澤先生、松尾先生、大学事務局の皆様、学生の皆様に感謝申し上げます。

参加者:神澤匡数(兵庫支部支部長 短7回生)、西田高大(学友会理事 短13回生)、奥好仁(短14回生)、辻居賢一(学友会理事 短15回生)、榎本亮介(短18回生)、吉田隆人(大6回生)、田中舞(大7回生)、山崎一樹(大7回生)

以上